

一般国道329号 西原バイパスに係る新規事業採択時評価

- ・西原バイパスの整備により、主要渋滞箇所を回避し、県内最大規模の工業団地や石油貯蔵施設における物流速達性が向上
- ・冠水箇所を回避することにより、第二次救急医療施設への速達性・アクセス性が向上

1. 事業概要

- ・起終点：沖縄県中城村津覇～
沖縄県西原町小那覇
- ・延長等：3.6km
(第4種第1級、4車線、設計速度60km/h)
- ・全体事業費：約140億円
- ・計画交通量：約37,200台/日



図2 事業位置図

2. 課題

① 渋滞による旅行速度の低下

- ・西原町内の幹線道路のピーク時旅行速度は、全国の主要都市のワースト上位(さいたま市)と同等に低い状況(図3)。
- ・国道329号の小那覇交差点は主要渋滞箇所となっており、隣接する内間交差点との区間では慢性的に速度が低下し(図4、図5)、交通渋滞が発生(写真1、写真2)。

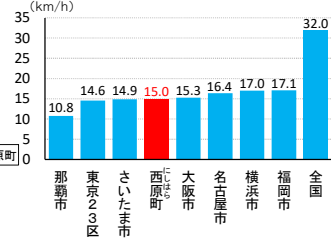
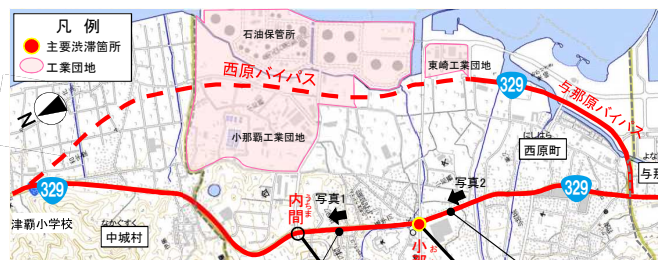
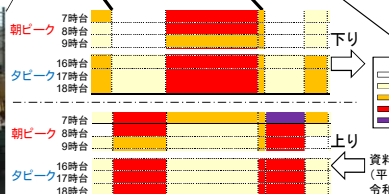


図3 主要都市のピーク時旅行速度
資料：一般国道、主要道地方道、県道を集計 (H27道路交通センサス)



② 物流への影響

- ・県内最大規模の小那覇工業団地が立地する西原町は、金属製品製造業の出荷額が沖縄県内第1位である(図6)。
- ・燃料油やガソリン等の石油貯蔵施設は近隣の小那覇地区にあり、最も需要の多い那覇都市圏を担っている(図7)。
- ・当該区間の渋滞により、重要港湾の中城湾港や那覇都市圏までの物流への影響が発生している。

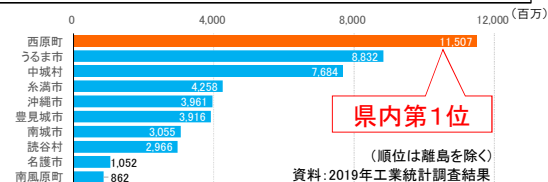
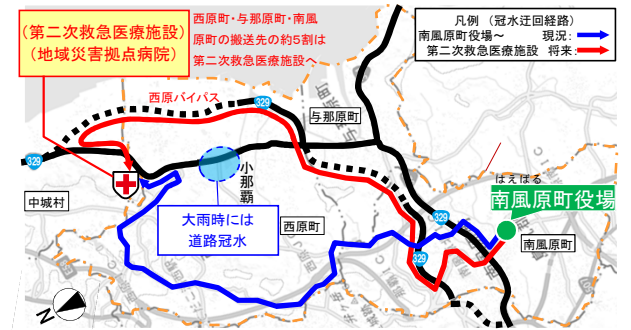


図6 金属製品製造業の出荷額 沖縄県上位10位
資料：2019年工業統計調査結果 (順位は離島を除く)



③ 救急搬送への影響

- ・国道329号沿道の第二次救急医療施設への救急搬送患者数は3,000人/年、うち西原町、南風原町、与那原町からの搬送先の約5割は当施設となっている(図8)。
- ・小那覇交差点付近では、過去10年で5回、大雨により近隣河川が溢れたため道路冠水し、全面通行止めも発生。
- ・道路冠水時は迂回が必要となり、医療施設までの搬送に時間を要する。



3. 整備効果

効果①② 渋滞の解消および、地域産業を支援【◎】

- ・重要港湾の中城湾港や那覇市までの速達性が向上し、地域産業を支援。

中城湾港～小那覇工業団地の所要時間【現況】約40分 ⇒ 【将来】約32分
那覇市～小那覇工業団地の所要時間【現況】約54分 ⇒ 【将来】約28分

※現況：H27全国道路・街路交通状況調査 混雑時旅行速度より算出
将来：H27全国道路・街路交通状況調査 昼間12時間平均旅行速度
西原バイパス、与那原バイパス、南風原バイパスは設計速度(60km/h)で算出

効果③ 救急医療サービスの向上【◎】

- ・冠水箇所を回避することにより、救急搬送の速達性が向上。

南風原町役場～第二次救急医療施設の所要時間(冠水箇所の迂回時)
【現況】約33分 ⇒ 【将来】約19分

※現況：H27全国道路・街路交通状況調査 混雑時旅行速度より算出
将来：H27全国道路・街路交通状況調査 昼間12時間平均旅行速度
西原バイパス、与那原バイパス、南風原バイパスは設計速度(60km/h)で算出

- ・費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

B/C	EIRR※1	総費用	総便益
5.8	20.6%	117億円※2	681億円※2

※1: EIRR: 経済的内部収益率 ※2: 基準年(R2年)における現在価値を記載 (現在価値算出のための社会的割引率: 4%)

一般国道329号 西原バイパスに係る新規事業採択時評価



凡例	
	対象区間
	一般国道
	主要地方道
	一般都道府県道
	その他道路
	主要渋滞箇所
	事故危険区間
	交通量 (H27全国道路・街路交通情勢調査)
	交通量調査 (H29.9)
	市街地 (集落)
	工業団地
	主な施設
	市町村境界線
	車線数 (2車線/4車線)
	冠水箇所

